食と農の風景あるキャンパスづくりプロジェクト

東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科
農大ふぁーまーず（湯田 蓮力、山崎 雅治、廣井 建、金井 幸介、渡辺 大貴、新井 雅啓、仲山 祐未）

1. 目的

総合農学を掲げる東京農業大学にある地域環境科学部造園科学科は、学術領域である造園学、ランドスケープデザインを学ぶ上で、農に学ぶ姿勢を育む「農の心」を学びの心得として掲げている。世田谷キャンパスの位置する「世田谷」のような都市空間において、どのような野菜やハーブ、果樹、樹木がどのように生育するのか、実践的な環境学習を通じて知恵を得ることを目的とする。

2. 取り組み内容

本プロジェクトは、2024 年 5 月に学科 100 周年を迎えた記念事業の一環として、本学世田谷キャンパス内にある経堂の森（仮称）とだんだん畑を活動フィールドに、学生・教職員・地域住民など多くの主体が関わることのできる新たなコミュニティの場として、また農作業やキャンパス緑地の維持管理を通じて、実践的な環境学習の場を創出するために取り組まれた。

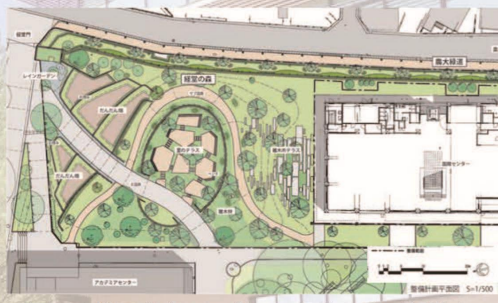

図 -1 世田谷キャンパス内 経堂の森（仮称）

2-1. 農大ふぁーまーずの結成と定期草会の開催

活動フィールドである経堂の森(仮称）とだんだん畑のオープンに伴い、2024 年 4 月に本学科所属の 7 人の運営メンバーを中心に「農大ふぁーまーず」を結成した。日常的な畑の管理に加え、経堂の森（仮称）の景観の維持管理を担うにあたり、多くの主体が参加できる選択除草イベント「定期草会」を企画・開催し、雑草と呼ばれる植物たちの同定や生態について学ぶとともに学内における新たなコミュニティの創出を図った。

2-2. La Farm & Garden（だんだん畑ー区画）とコンテナガーデン「動く食の庭」

だんだん畑「La Farm & Garden」は、「食の庭」をテーマに野菜やハーブ、草花などの有用植物を用いたエディブルガーデンづくりに取り組んだ。畑内にバイオネストを設けて、日常的な畑の管理、定期草会で生じる草ごみや学内にあるコーヒーショップから提供を受けたコーヒーかすを活用した堆肥づくりによる資源の循環に取り組んだ。また、畑は本学科 1 年生の実習授業の場としても活用され、授業の際にはメンバーがレクチャー担当として、教員のサポートをした。

コンテナガーデン「動く食の庭」は、記念事業の一環で畑のテーマと連携して製作した。製作過程では、地域の子どもたちによる野菜の植え付け体験会を企画・開催し、水田や里山の環境学習や観察、スケッチを実施した。植栽は、畑の間引きや将来的に植栽予定のものを活用し、別の活動で学内調査を実施した結果・課題をもとにキャンパス内における暫定的な緑地空間とベンチの設え、オープンスペースの利用創出を図った。

3. 取り組み成果

写真 1：1 年生の授業風景
学生がレクチャーしている。

写真 2：定期草会の風景。

写真 3：定期草会の集合写真。
平均 23 人もの参加者がいる。

写真 4：植え付け体験会の風景。
学生とスケッチをしている。

写真 5：動く食の庭 ver. 簾
夏の日陰空間を設けた。

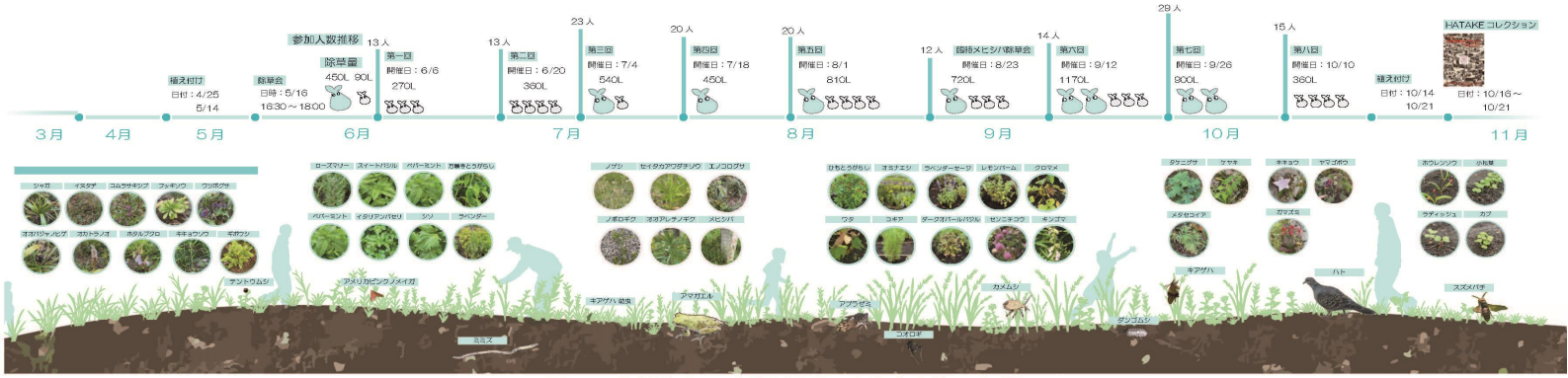

図 -2 定期草会の成果と観察できた生き物の変遷

4. まとめ

2024 年 6 月から 10 月にかけて定期草会を計 8 回開催し、参加者数は平均 20 人、最大 29 人となり、植物数では、当初の 10 種から 29 種まで生育が確認され、多様性の変化や維持管理について、外部の植栽アドバイザーに好評価をいただいた。また、これまで関わりのみられなかった学生と教職員間で取り組みに参加後、普段の挨拶や会話をするようになったなどのポジティブな変化がみられた。